

かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター
自然保護課

住所：神奈川県厚木市七沢657

TEL：046-248-6682

※野外施設の情報は、ホームページでも紹介しています。

野外施設自然情報

自然環境保全センター 生き物

検索

自然環境保全センターの野外施設には、身近な自然を観察できる自然観察園（昭和57年オープン）と、樹木一つ一つをじっくり観察できる樹木観察園（旧林業試験場時代の約50年前に整備）があります。

野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。

この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を紹介しています。

<ヘビ、活動開始！>

5月以降気温が高くなり、ヘビに遭遇することが多くなりました。ヘビは体温が外部の温度により変化する変温動物のため、活動が活発になってきたようです。写真や動画をツイッターでも紹介しました。

◆シマヘビ

薄茶に4本の縦縞が特徴です。おもに水辺にいたることが多いですが、草地で見られることもあります。食性は幅広く、ネズミや小鳥なども食べますが、特にカエルやトカゲなどを好みます。



シマヘビ(5月2日撮影)

◆アオダイショウ

青みがかった体色で、成長すると2mを越えることもある日本最大のヘビです。ネズミなどの小動物や鳥を好んで食べるため、林や水辺だけでなく、人家でも見かけることがあります。木登りが得意で、野鳥の卵やヒナも食べます。



アオダイショウ(5月3日撮影)

◆ヤマカガシ

赤と黒の市松模様のような柄と首元の黄色い模様が特徴です。水辺で見られ、泳ぎも得意で、カエルを好んで食べます。2種類の毒を持ちますが、首の後ろから分泌する護身用の毒は、食べたヒキガエルの毒を蓄積し、再利用したものです。

6月に遭遇したのは、ヒキガエルを捕食している場面で、顎を少しずつ動かして飲み込む様子を動画で撮影しました。



ヤマカガシ(6月18日撮影)

園内では他にもヒバカリやジムグリなど様々なヘビが生息しています。身を潜めるのがうまく、動きも素早いヘビとの遭遇率は高くありません。出会えたら、ちょっとびっくりするかもしれませんが、そっと観察してみてください。

また、ヤマカガシやマムシには毒があります。基本的にはおとなしい性格ですが、こちらから刺激すると攻撃されることがあります。捕まえようとしたり、観察路を外れて沢沿いの草むらやヤブの中に立ち入ったりしないように注意しましょう。

<トンボを観察しよう！>

初夏から秋にかけて園内を飛び回るトンボたちは見どころのひとつです。多くの種類が見られますが、今回は、よく似たシオカラトンボ類3種を紹介します。自然観察園ではシオヤトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボの3種が見られます。オスは青白く、メスは小麦色でよく似ていますが、成虫が飛び回る時期や生息環境によってすみ分けています。シオヤトンボとシオカラトンボは開けた日当たりのよい場所を好み、オオシオカラトンボはやや暗めの小さな水域で活動します。

見られる時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月
シオヤトンボ		←→				
シオカラトンボ		←→	←→	←→	←→	←→
オオシオカラトンボ			←→	←→	←→	

見分け方のポイント



シオヤトンボ

- ・オスの複眼は青みがある
- ・オスは全身青白く粉を吹く
- ・メスは全身小麦色と黒が目立つ



シオカラトンボ

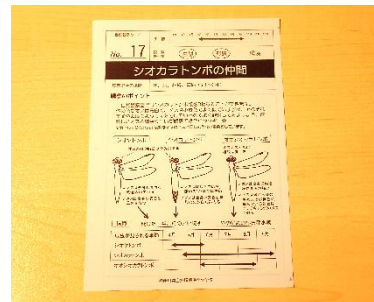
- ・オスの複眼は青みがある
- ・オスの体は青白く、腹の先が黒い
- ・メスは全身小麦色と黒く腹の先が白い



オオシオカラトンボ

- ・オスメスともに複眼は黒い
- ・オスの体は粉を吹き青みが強い
- ・メスは胸から腹の中心までが黄色

展示室では自然観察のポイントを紹介した「自然観察カード」を用意しています。シオカラトンボの仲間を見分け方を紹介したカードもありますので、ぜひ参考にしてください。さらに、今後は他のトンボについても、どんな種類がいつごろ飛ぶのか、情報収集していきます。みなさんも注目してみてください。



<池の浚渫作業を行いました>

1～3月にかけて、水漏れがひどかった池の縁（Y8～9）の補修工事と、池の中に堆積した土砂の除去作業を職員で行いました。

自然観察園は奥から緩やかに下がる地形なので、水の流れとともに上流から運ばれてきた土砂が徐々に堆積します。また周囲の落葉樹からは毎年大量の葉が落ちて堆積します。土砂や落ち葉の堆積が進むとやがては乾燥した陸地になるので、池の環境を維持するためには、定期的に池の底の土砂を除去することが必要です。この作業を「浚渫（しゅんせつ）」といいます。

冬の間中、水を抜いて乾燥させたとはいえ、足をとられながら重たい泥をスコップで掘り出す作業はなかなかの重労働。ケラや冬眠中のドジョウを発見したり、だれかの落とし物の小さな長靴などを発掘しながら作業は少しずつ進みました。すべての池を毎年浚渫することは難しいですが、今後も少しずつ順番に池の管理を行っていききたいと思います。



浚渫作業中



作業後、水がたまった池

傷病鳥獣救護の情報

※救護の情報やバックナンバーは、ホームページで見られます。

神奈川県 野生動物救護

検索

自然環境保全センター（旧自然保護センター）では、傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた県内の傷ついたり弱ったりした野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を収容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を昭和53年（1978年）から行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載しています。

・・・● 2021年1月～3月の報告 ●・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

救護実績

【救護件数上位5種】

【主な救護原因】

種名	件数
タヌキ	10
キジバト	9
ヒヨドリ	7
メジロ	4
ツグミ	4

鳥類の原因	件数
ネコなどに襲われる	15
ガラス窓などへの衝突	7
油や粘着剤に絡む	5
交通事故	1
釣り糸（針）や防鳥ネットなどに絡む	1

哺乳類の原因	件数
疥癬症（かいせんしょう）	9
交通事故	1



メジロ（巣立ちビナ）

＜粘着シートにつかまった鳥たち その2＞

第17号で紹介した「粘着シートにつかまった鳥たち」。当時は、多い年で10件程度でしたが、救護件数が減ったのか気になって調べてみると……2020年度は11件と残念な結果になっていました。ここでは、最近の救護事例とともに対処方法を紹介します。

3羽一緒に持ち込まれました

下の写真は、2020年11月29日の受け入れ時の様子です。持ち込み者によると、「自宅にネズミが出たので、捕まえるためにベランダ面にネズミ捕りを仕掛けたら、鳥がバタバタしていたので、小麦粉をふりかけてはがした。」という話でした。まさかこのような結果になるとは思っていなかった様子で、「自宅に帰ったらネズミ捕りシートをすべて回収します。」と約束してくださいました。さて、この3羽はその後どうなったのでしょうか。



①受付No. : 200243

種 名 : シジュウカラ

体 重 : 12.9g

転 帰 : 2020年11月30日死亡

②受付No. : 200242

種 名 : メジロ

体 重 : 10.3g

転 帰 : 2020年11月29日死亡

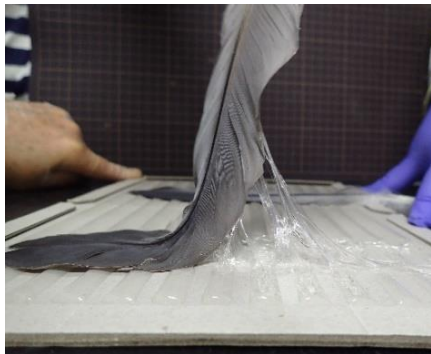
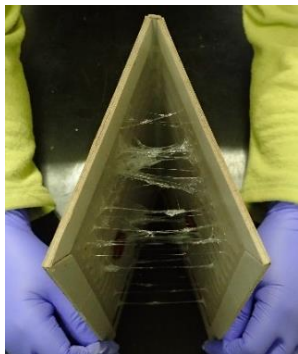
③受付No. : 200244

種 名 : シジュウカラ

体 重 : 14.8g

転 帰 : 2020年12月25日放野

粘着シートって？



左の写真は動物や昆虫を捕獲する粘着シートを開いているところです。粘着剤がビヨ〜ンと伸びているのがわかります。右の写真のように羽根をつけてみると、強力な粘着力で力の限り引っ張らないと剥がれません。この羽根がもし野鳥だとしたらと想像してみてください。逃げようとして必死に動くので、どんどん粘着剤が身体中に絡まってしまい、身動きがとれなくなります。強引に剥がすと羽が痛んだり、骨折してしまうかもしれません。

救護事例

左の写真は、救護する際に両翼の正羽（風切羽）を切られたシジュウカラの成鳥です（矢印部分）。幸い粘着剤は少量だったので、すぐに放野できるのですが、写真のような羽の状態ではうまく飛べないため、羽が生え替わるのを待たなければなりません。

右の写真は、今年巣立ったばかりのスズメのヒナです。胸の部分の体羽（半綿羽など）が粘着剤に絡んで抜けてしまい、地肌が丸見えです。このままでは寒いので、暖かい部屋で羽が生えてくるのを待つことになります。



海鳥など種類によっては、羽を強引に抜いてしまうと生えてこない場合もあります。羽が生えてないと自然復帰は叶わなくなってしまうため、救護する際は注意が必要です。

羽毛の役割とは？

飛ぶために必要な正羽（風切羽など）（図1）は、翼の部分にあり、マジックテープのような構造になっており、羽の繊維同士がくっついて風をとらえやすくなっています。

体を覆う体羽（半綿羽など）（図2）は、主に体温を維持するための羽です。空気を多く含むことができるように、綿状羽枝（ダウンジャケットの素材）の多い構造になっています。

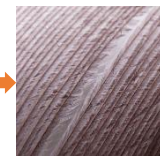


図1. 風切羽根



図2. 半綿羽根

救護する時は

※受け入れ準備をします。**事前に相談**をお願いいたします。電話番号【046-248-0500】

小麦粉など（食品用の粉もの）をまぶして、これ以上他の部分が接着しないようにし、**シートから剥がさず**にそのまま段ボールの中に入れて、蓋をして安静にしてお持ち込みください（下の写真）。

また、エサや水を与えると粘着剤も一緒に飲み込んでしまう場合があります。特に水は移動時にこぼれて身体を冷やしてしまうので、与えないことをおすすめします。

また、体温を維持できなくなっていることが多いので（鳥の体温は高く約40℃）、ペットボトルに50～60℃くらいのお湯を入れてタオルなどで巻いたものを側に置いて、段ボール箱内の空気が39～40℃くらいになるように温めてあげましょう。

